

農福連携事例発表 高齢者が主役の農福連携

社会福祉法人 陶都会
事務局長 田中良和

I 法人概要

II 高齢者が主役の農福連携
「活動内容及び成果」

III 循環型農業からはじまる
多世代交流拠点→地域共生社会の実現

I 法人概要

I 法人概要

●法人設立 2002年

●事業内容

ドリーム陶都 岐阜県土岐市下石町

- ・特別養護老人ホーム 80名
- ・ショートステイ 20名
- ・ケアハウス 30名

多容荘 岐阜県多治見市旭ヶ丘

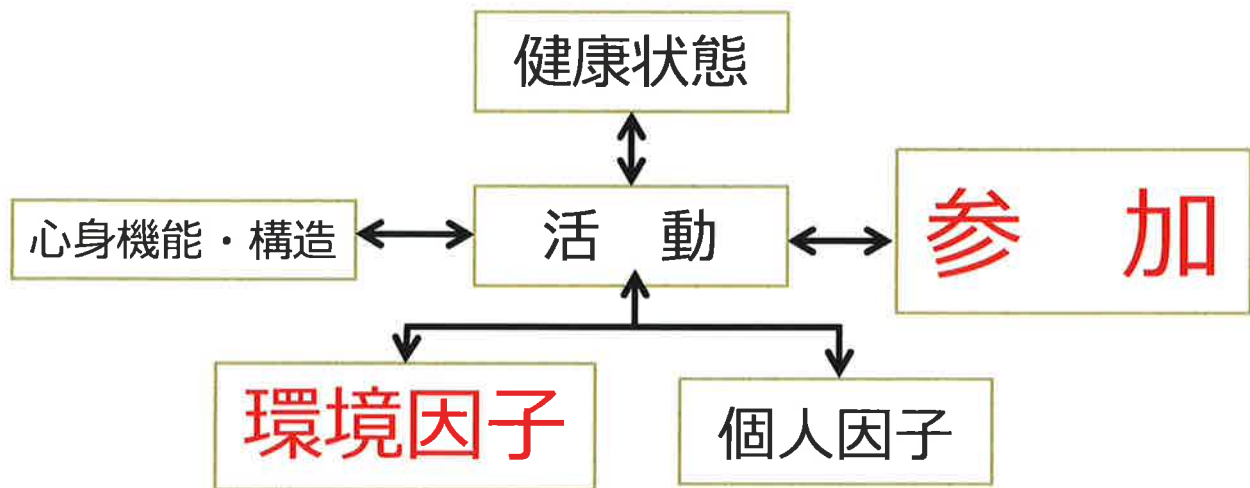
- ・養護老人ホーム 40名
- ・地域包括支援センター

●職員数 91名（内パート30名）



I 法人概要

2018年度より「高齢者が主役の農福連携」を開始



ICF（国際生活機能分類）で示す、
【参加】 【環境因子】 の充実

II 高齢者が主役の農福連携

「活動内容及び成果」

Ⅱ 高齢者が主役の農福連携

- 特養の敷地 16,000㎡の内、約2000㎡を畑地化
- 2018年度 農山漁村振興交付金事業
 - ・ 車椅子対応の
ビニールハウス 1棟
 - ・ 井戸（災害時にも有効）
 - ・ 作業マニュアルの整備
- 鶏舎・池・堆肥舎
田んぼ（試験栽培13㎡）
- 総事業費 1,500万円



Ⅱ 高齢者が主役の農福連携



整備前

2015年度までは
この部分も広場



整備後

Ⅱ 高齢者が主役の農福連携

- **移動式篩分け工法**による、環境に配慮した土壌改良。

現場の土を鋤取り篩分けし砕石→砂利→砂、土の順に埋め戻すため、**残土が発生しません。**



Ⅱ 高齢者が主役の農福連携



イチゴハウス



池



アローカナ



鶏舎・運動場



田んぼ

Ⅱ 高齢者が主役の農福連携



ブルーベリー苗の定植



鶏の餌やり



大豆の選別



イチゴ苗の収穫

Ⅱ 高齢者が主役の農福連携

● 農園の特徴

化学合成農薬や化学肥料を使わず、**地域の有機物を堆肥化・循環活用**し、**安全・安心な野菜**を栽培。

養鶏も同様に、**地域から出るおから、米ぬか、くず米**等を**好気性発酵**させた**飼料**を与え、**運動場付きの平飼い**を行っている。



Ⅱ 高齢者が主役の農福連携

● 主な収穫物

- ・ さつまいも
- ・ じゃがいも
- ・ トマト
- ・ ネギ
- ・ 原木椎茸
- ・ 大豆
- ・ きゅうり
- ・ ピーマン
- ・ 白菜
- ・ 鶏卵 (アローカナ)
- ・ いちご
- ・ ナス
- ・ 米
- ・ ズッキーニ



Ⅱ 高齢者が主役の農福連携

● 収穫物をオーガニック給食を推進する保育園へ

高齢者が主役の農福連携
×
オーガニック給食

要介護認定を受けた高齢者が、次世代を担う子供達の健康に寄与する。
支える、支えられるといった垣根のない関係を実現



Ⅱ 高齢者が主役の農福連携

● 介護予防効果について

【事例1】

農園に出るとBPSDが改善され、通常の会話がで けるようになる。その後、部屋に戻られてからも落ち着いて過ごされた。

もし農園がなければ、翌日精神科へ受診になっていた。



Ⅱ 高齢者が主役の農福連携

● 介護予防効果について

【事例2】

パーキンソン病で、普段は目をつむっている事が多く、食事もほぼ全介助の方が、イチゴ苗を植え付ける時はしっかり目を開け、自ら手を伸ばし作業されていた。



Ⅱ 高齢者が主役の農福連携

- 介護予防効果について

農作業や、収穫物を通じた園児たちとの交流により、**人生に生きがいや明確な目的意識**を生じさせることができ、その事が、身体機能の維持、或いは回復に繋がるのではないか。

これからの高齢者施設は

I C F ①**社会参加**→②活動→③心身機能・構造

この因果関係を重視するべき

Ⅱ 高齢者が主役の農福連携

- 介護予防効果について

「その人らしく・・・」といった言葉を、高齢福祉の中でよく耳にするが、「**主体性をもって他者のために活躍できる場**」が提案できなければ、いくら介護技術、リスク管理のレベルを上げて、それはただ、その方の状態、病状をコントロールしているだけに過ぎない。農業を取り入れることでその事に気づくことができた。

Ⅱ 高齢者が主役の農福連携

●採算性について

圃場の規模、鶏の数が小規模のため、現段階での採算はとれていないが、「福祉」に甘えるのではなく、「販路（ストーリーに賛同して頂いた協力者）」、差別化、ターゲティングに対しての方向性を明確にした上で事業をスタートしたことで、しっかりと核ができています。今後もぶれる事なく継続していけば、採算の部分でも結果を出せると確信しています。

Ⅱ 高齢者が主役の農福連携

●アローカナの卵を大河ドラマ館で販売



2個入り 1パック400円



Ⅲ 循環型農業からはじまる

多世代交流拠点→地域共生社会の実現

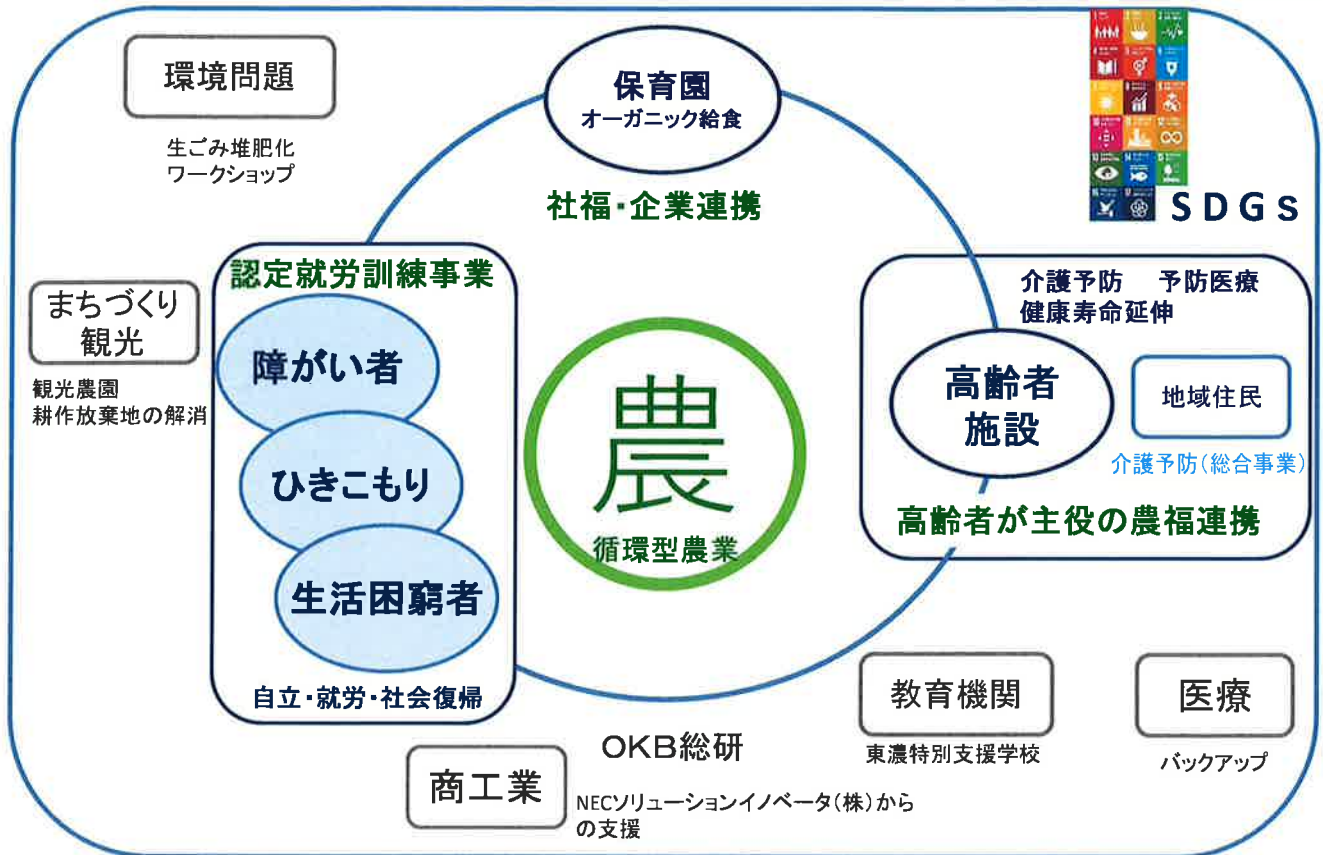
Ⅲ 多世代交流拠点→地域共生社会の実現

当初は、要介護認定を受けられた高齢者の機能回復訓練、生きがいを目的として立ち上げた農福連携でしたが、取り組みを通し、他業種の方と多くのご縁をいただくことで発想、活動の輪が広がり、**循環型農業を中心に据えた、**

- ・ 福祉施設の多世代交流拠点化（**隔離の解消**）
- ・ 社福、企業連携
- ・ 障がい、引きこもり、生活困窮者の就労支援
- ・ 福祉的 小規模 家族農業
- ・ SDGsの達成

等への発展、**地域共生社会の実現**ができるのでは。そう考えるようになりました。

Ⅲ 多世代交流拠点→地域共生社会の実現

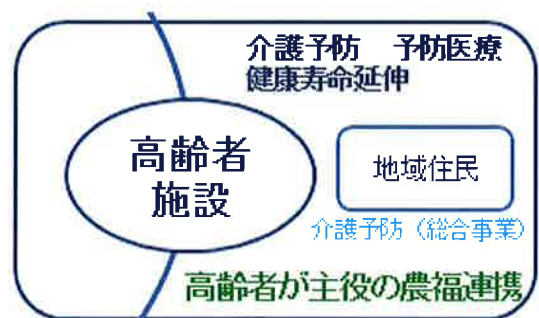


Ⅲ 多世代交流拠点→地域共生社会の実現

● 高齢者が主役の農福連携

作業マニュアルを活用した農作業で、施設入所者はもちろんのこと、今後は、地域の高齢者も一緒に**主体的な介護予防（総合事業）**と生きがいをづくり。

農作業がきっかけとなり、高齢者施設が『通いの場』更には、農業を通し、子供、障がい者とともに**多世代交流拠点**に。



Ⅲ 多世代交流拠点→地域共生社会の実現

● 社福・企業連携

オーガニック食材の取引を今後も継続。他法人と『子供達の健康、食の安全』に対し共働、連携を強化しておくことで、人口減少局面での社福の機能変化、統合、包括化に柔軟に対応、地域の福祉サービスの維持、向上が可能ではないか。



社福・企業連携



Ⅲ 多世代交流拠点→地域共生社会の実現

● 2020年度より認定就労訓練事業を開始

障がい者、ひきこもり、生活困窮者の就労に向けたきっかけづくりを農作業・介護補助業務で。ジョブコーチ4名在籍。教育機関とも連携し、本人のペース、状況に応じた支援を行なう。



教育機関
東濃特別支援学校



Ⅲ 多世代交流拠点→地域共生社会の実現

● 2020年度より農業講座開始

対象者は施設入所者とそのご家族、近隣の方、職員等。
有機栽培、生ゴミ堆肥のワークショップ等を実施予定。



環境問題

生ゴミ堆肥化
ワークショップ



【開催日時】毎月第2日曜日 9:30-12:00
※雨天・大雪終了時に開催の繰り替えあり。
【場所】ドリーム高齢者福祉施設・チャイルドハウス
【内容】講座（講義）と実習（農作業）の両輪が特徴的。
【参加費】参加費：2500円/席（消費税別） 年納10回、回数予定。
【こんな方に参加してほしい】
子供から高齢者まで、年齢を問わず農業について興味のある方、有機栽培、農業や化学肥料を使わない栽培方法について興味のある方。
【申し込み・お問い合わせ】
社会福祉法人東都舎 ドリーム会館
TEL: 0512-57-5122 担当: 各務 E-mail: jmu@tohokaj.jp
※東都舎は障がい者福祉の推進、高齢者福祉の向上に努めることにより社会の活性化を図ります。



Ⅲ 多世代交流拠点→地域共生社会の実現

● 観光、耕作放棄地の解消

【実績】 器（地元陶芸家）×オーガニック食材
を使用した料理

【今後】 地場産業（陶器）×観光農園

『農福で焼き物の町を再生』

まちづくり
観光

観光農園
耕作放棄地解消



←地元陶芸家とコラボ



Ⅲ 多世代交流拠点→地域共生社会の実現

- 他業種からの支援も得ながら
発展させていく

【実績】

六次化に向けての試作

- ・いちごジャム
- ・ブルーベリージャム
- ・干し芋



商工業

OKB総研

東濃

NECソリューションイノベータ(株)
からの支援

【2020年度から】

IOTを活用したハウスの管理。
また、農園に頻繁に出れない
方でも参加できる仕組み
づくり

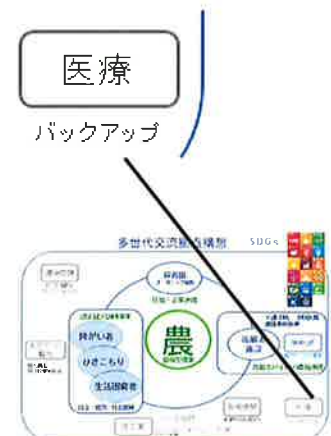


Ⅲ 多世代交流拠点→地域共生社会の実現

- 医療の関わり方

「農」を通して生命の本質を学びながら、人間らしさ(知性、感情、意志
力)を磨き、本来、提供すべき医療、
介護サービスはどういったものがより
良いか、再考する機会として欲しい。

マニュアルやリスク管理ばかりに目が
いくことで、対象者の残りの人生を
『拘束』することがないように、バラン
ス感覚を。



Ⅲ 多世代交流拠点→地域共生社会の実現

農福×SDGs

16項目に該当



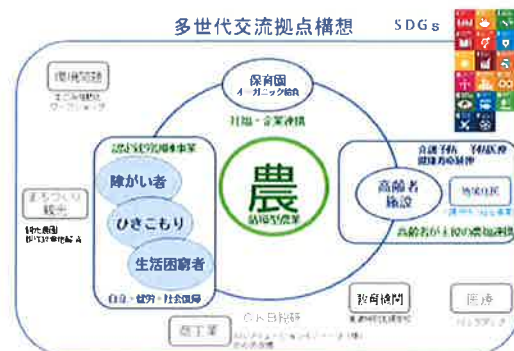
置かれた立場はそれぞれ大変だが、
自分の事は少し置いておいて

次世代のためにできることは何か
を考える



Ⅲ 多世代交流拠点→地域共生社会の実現

多世代交流拠点を中心とした地域の
輪をひとつの家と捉え



福祉的 小規模・家族農業の促進



『地域共生社会の実現』

最後に

陶都会では今後、『高齢者が主役の農福連携』の、横のつながりをつくっていきたいと考えています。

興味のある方は是非、当法人に見学にお越しください。まだまだ大した実績はありませんが、私どもの経験は全て皆さんと共有したいと思っています。よろしくお願いします。

ご清聴、ありがとうございました